

アケボノユウレイグモ *Belisana akebona* (Komatsu)

【選定理由】

山間部の石垣・崖地・洞窟などの暗所に生息するが、どの生息地においても個体数は少ない。近年、道路工事や、生息環境の乾燥化等の影響で生息域が縮小し、個体数の減少が懸念される。

【形態】

体長 2～3mm。各脚が非常に長い。眼は 6 眼で左右に 3 眼ずつの 2 群になっている。腹部は丸く後方で高まる。背面に 3～4 対の斑紋があるが、色彩に変化が多く斑紋のない個体もある。



岡崎市(旧額田町)石原町(闊苧溪谷), 2007 年 5 月 23 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

岡崎市(旧額田町)、豊橋市、新城市(旧鳳来町)、北設楽郡設楽町に分布する。

国内では、本州、四国、九州に分布する(新海ほか, 2018)。

【生息地の環境／生態的特性】

湿った暗所を好み、石垣のすき間や崖地のくぼみ、洞窟の壁面などに不規則網を張り、網の上部に静止する。

【現在の生息状況／減少の要因】

洞窟(嵩山蛇穴)、湿り気のある崖地、石垣の隙間、トンネル内などの暗所に生息する。北設楽郡設楽町における 2006～2015 年の調査では、生息を確認することができなかった。

【保全上の留意点】

崖地の工事は生息場所が消滅する危険度が高く、最大限の配慮が望まれる。石垣の修復はすき間を設けるように施工することが望まれる。

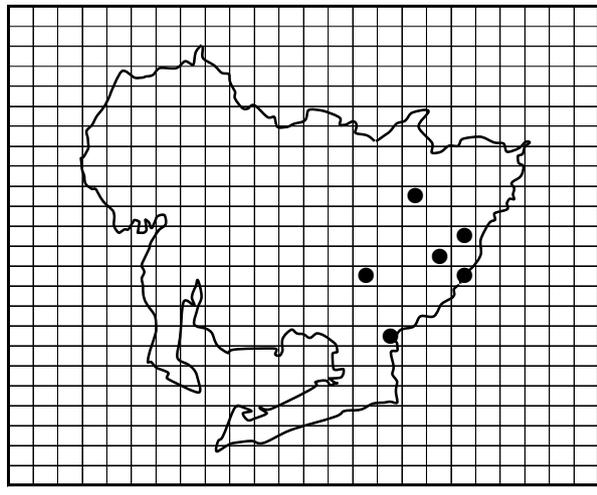
【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.27,171. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.29. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.93. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.111. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.47,488. 東海大学出版会, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)